

1993. 3. 4

福岡市東区箱崎六丁目10番1号
九州大学大型計算機センター

目 次	
1. 年度末及び年度始めの計算サービスの一時停止について	2
2. 平成5年度の計算サービス時間について	2
3. SASのバージョンアップについて	3
4. TSSマルチセッションでのPFD/PFDEの機能追加について	9
5. DRALGTの運用停止について	11
6. SHL1-SHL5の運用停止について	11
7. TRAMSの運用停止について	12
8. MMR Aの運用停止について	13
9. 平成5年度プログラム相談員の再募集について	13
10. 平成5年度講習会開催計画について	14
11. 科学技術計算と可視化に関する講演会の開催について	15
12. 「利用の手引・MSPコマンド編」の発行について	16

1. 年度末及び年度始めの計算サービスの一時停止について

このことについて、年度末及び年度始めの処理作業のため下記のとおり、計算サービスを一時停止します。

月 日	利用者サービス	センター内作業
3月27日(土)	平成4年度のサービス終了	
3月29日(月)	サービス停止	* 出力待ちジョブの強制出力作業及びシステムバックアップ作業
4月1日(木)		* システム変更作業 * 登録申請作業 * 設備管理システムの改造作業 * 分電盤設置作業
4月2日(金)	平成5年度のサービス開始	

備考. 3月27日(土)及び4月2日(金)は、通常スケジュールどおり計算サービスを行います。

(システム運用掛 内線2517)

2. 平成5年度の計算サービス時間について

1993年4月1日から1994年3月31日までの計算サービス時間は、下記のとおりです。

計算サービス時間

サービス項目	曜日	開始時刻	終了時刻			
			通年	93.4～8	9～11	12～94.2
センター内利用						
クローズLP出力	月	12:30	16:45	20:00	16:45	
	火～金	9:00				
MSP/TSS オープン利用機器	月	12:30	22:00	23:00	22:00	
	火～金	9:00				
センター外利用						
MSP/TSS RJE ネットワーク	月	12:30	24:00	2:00	終夜運転	24:00
	火～木	9:00				
	金	9:00	終夜運転			
	土	-*	17:00			
UXP	月	12:30	23:00	1:00	終夜運転	23:00
	火～木	9:00				
	金	9:00	終夜運転			
	土	-*	17:00			

*) 金曜からの連続運転

- 備考
1. 毎週月曜日は、計算機システムの保守のため12時30分から計算サービスを開始します。
 2. 金曜日から土曜日にかけての連続運転を行います。金曜日が休日の場合には、土曜日の午前9時からサービスを開始します。土曜日が休日の場合には、金曜のサービス終了時間は木曜日のそれに準じ、土曜日のサービスは行いません。
 3. 16時45分以降（月～金）と土曜日は無人運転を行っており、システム障害が発生した場合は、約15分後に自動的に計算サービスを再開します。ただし、20分経過後に再開できない場合は、計算サービスを打ちらせていただきます。
 4. クローズLP出力終了時刻以降のラインプリンタ出力は、オープン機器室の日本語ラインプリンタ装置を利用してください。使用方法はオープン機器室に掲示しています。
 5. 延長運転を行う場合はそのつどセンターニュースでお知らせします。

(システム運用掛 内線2517)

3. SASのバージョンアップについて

統計解析システム SAS が従来の 5.18 から 6.07J にバージョンアップされます。新バージョンでは、日本語機能を始めとした様々な機能拡張、新機能の追加が行なわれています。コマンドは MSP の SAS607, RSAS607 で起動されます。また、カタログドプロシジャは SAS607 です。

SAS 新システム・バージョン 6.07J は、旧バージョン 5.18 (コマンド SAS, RSAS, カタログドプロシジャ SAS) と当面併行運用しますが、1993年5月末を目処に新バージョンへの一本化を行ないます。旧バージョンのデータをお持ちの方は、動作確認、移行をお早めにお願います。

センターでの SAS 使用環境の詳細は、1993年5月25日発行予定の九州大学大型計算機センター広報に掲載しますが、それまでの「つなぎ」として SAS のコマンド、カタログドプロシジャの使用法 (CLP, NLP への出力、グラフィック端末への出力等) の例題を載せた冊子をセンター2階受付の前に設置しておりますので、ご自由におとり下さい。

1 コマンド SAS607, RSAS607 について

【機能】

データ解析ソフトウェア SAS 環境の設定 (セッションで最初に呼ばれた時) と、SAS の呼び出しを行い、EDIT コマンドで編集中のテキストを SAS プログラムとして実行する。

RSAS607 は PFD で編集中のテキストを SAS プログラムとして実行するサブコマンドである。

オペランドなしで SAS607 と入力すると、SAS ディスプレイマネージャ (フルスクリーン開発支援システム) が起動される。

【入力形式】

SAS607 [DATASET (* | データセット名)]

RSAS607 [NOHELPJ]

[NOMSGJ]
 [LOUT (OPR | NLP | CLP | データセット名)]
 [POUT (OPR | NLP | CLP | データセット名)]
 [GOUT (OPR | NLP | CLP | データセット名)]
 [OPTions (オプションリスト)]
 [LIne (行番号 | 始行番号 : 終行番号)]
 [Macro (データセット名)]
 [FOrmat (データセット名)]
 [OPR(OPR 機番)]
 [NLP (Q | U | A | K | S)]
 [User (DD 名)]
 [Trace]
 [PSHEET (A4LS | A4PR | B4LS | B4PR)]
 [LSHEET (A4LS | A4PR | B4LS | B4PR)]
 [SIDE (FRONT | BOTH)]
 [BIND (LEFT | RIGHT | UPPER | LOWER)]

オペランド欄で、太文字は先の部分が省略可能であることを意味します。
 例えば Trace は T と指定するだけで TRACE が入力されたと解釈されます。
 また、アンダーラインは、指定されない場合の省略値を表します。

【オペランドの説明】

DATASET : SAS プログラムの入力データセットを指定する。
 * を指定すると端末となり、データセット名を指定すると、指定したデータセットを SAS プログラムとして実行する。
 省略時は EDIT モードでは、編集集中のテキストを SAS プログラムとして実行し、コマンドモードでは、SAS プログラムの入力は端末となる。
 LINE オペランドによって範囲指定が可能。

NOHELPJ : help メッセージを日本語で表示しないことを指定。

NOMSGJ : 日本語出力を行なわないことを指定。

LOUT : SAS ログ出力の出力先を指定する。
 OPR を指定すると OPR オペランドで指定された機番から出力され、NLP を指定すると NLP オペランドにしたがって出力される。
 CLP を指定すると SYSOUT(U) として CLP への出力が可能になる。
 データセット名を指定すると、そのデータセットへ出力される。
 省略時は端末へ出力される。

POUT : SAS プロシジャ出力の出力先を指定する。 LOUT と同様。

GOUT : SAS/GRAPH の出力先を指定する。 LOUT と同様。

OPTIONS : SAS オプションを指定する。 SAS オプションの詳細については「SAS Language, Reference Version 6, 1st ed.」を参照。
 ただし次のオプションを指定してはならない。
 USER, WORK, SYSIN

LINE : データセットまたは EDIT で編集集中のデータセットの SAS による実行範囲を行番号で指定する。ただし、EDIT で編集集中のテキストの実行範囲を番号で指定する場合に限り、必ずしもその番号のテキストがなくてもよい。省略時は、指定したデータセットのすべてを実行する。

MACRO : SAS マクロライブラリのデータセット名を指定する。

FORMAT : SAS FORMAT 用のデータセットを指定する。
DD 名は SASLIB となることに注意する。省略時は、セッションで最初に呼ばれた時のみ、DD 名 SASLIB をもつ作業用データセットとして定義する。FORMAT を定義する時には、次のように指定する。
PROC FORMAT DDNAME=SASLIB

NLP : SAS ログ、SAS プロシジャ出力、SAS/GRAPH 出力を NLP に出力する時の出力クラスを指定する。省略時は O となる。

OPR : SAS ログ、SAS プロシジャ出力、SAS/GRAPH 出力を OPR に出力する時の OPR 機番を指定する。

USER : DD 名を省略できる SAS データセットの DD 名を指定する。
DD 名 SASWORK を指定してはならない。普通 SAS データは、「DD 名.SAS データ名」で指定する。しかし、SAS データがこのオペランドで指定したデータセットに存在する場合は、DD 名を省略し単純名を使用することができる。
省略時は、DD 名を SASWORK とし、セッションで最初に呼ばれた時はこの DD 名に十分な容量の作業用データセットを割り当てる。

TRACE : コマンド実行のトレースをとることを指定する。

SIDE : BOTH の指定で両面印刷を行なう。CLP への出力のみ有効。

BIND : 用紙の「とじしろ」の位置を指定。CLP への出力のみ有効。
LEFT (左), RIGHT (右), UPPER (上), LOWER (下)。

PSHEET : SAS プロシジャの CLP に出力時の印刷モードを指定。
A4, B4 は用紙サイズ, LS, PR は印刷方向を表す。

LSHEET : SAS ログの CLP 出力時の印刷モードを指定。

- TSS の EDIT コマンドでデータセット SAS.TEST.DATA を作成し、SAS607 コマンドで実行する。

```

READY
E SAS.SAMPLE.DATA          <--- SAS テキスト SAS.TEST.DATA を新規に作成
KEQ52320I DATA SET NOT FOUND, ASSUMED TO BE NEW
INPUT
00010 proc options;       <--- SAS のオプション一覧を表示させるプロシジャ
E
SAS607                    <--- SAS を起動する

```

- SAS.TEST.DATA のログ出力をセンターの CLP (Cutsheet Line Printer) に両面出力する。表示は英語で行なう。

```

READY
E SAS.TEST.DATA          <--- SAS.TEST.DATA の編集
E
SAS607 LOUT(CLP) SIDE(BOTH) NOMSGJ
SAS RETCD= 0
SAS END **
E
END S
READY

```

- SAS/GRAPH データセット SAS.GRAPH.DATA を編集し、図形出力をセンターの CLP に行なう、

```

READY
E SAS.GRAPH.DATA  <--- SAS テキスト SAS.GRAPH.DATA を新規に作成
KEQ52320I DATA SET NOT FOUND, ASSUMED TO BE NEW
INPUT
00010 GOPTIONS DEVICE=GSP6683 NODISPLAY GSFMODE=REPLACE GFORMS=PR21
00020          COLORS=(NONE) GSFNAME=FT14F001 ;
00030 PROC GTESTIT PIC=1;
00040 RUN;

```

```

E
SAS607 GOUT(CLP)  <--- 図形出力テストが CLP に出力される

```

- サンプルプログラム 'LIB.SAS607.SAMPLE(ACECLUEx)' を実行する。プロシジャ出力を CLP に行なう。

```

READY
SAS607 DA(''LIB.SAS607.SAMPLE(ACECLUEx)''') POUT(CLP)

```

【注意事項】

- 旧バージョンのコマンド SAS, RSAS と、新バージョンのコマンド SAS607. RSAS607 を 同一セッション内で起動 させると、作業用領域の割当ての違いから SAS の実行が出来ない場合があります。この場合、次のコマンドを入力した後、各 SAS 関連コマンドを再投入下さい。

– READY モード

```

READY
FREE AT(SASSET SAS6SET)  <--- 作業用ファイルの解放

```

– PFD 内

```

X FREE AT(SASSET SAS6SET)  <--- 作業用ファイルの解放

```

- SAS/GRAPH を TSS で利用する際は、拡張モード を指定下さい。LOGON 時に LOGON TSS 課題番号 に続けて S(50) と入力します。

```
JCET010 SYSTEM READY
LOGON TSS A79999A S(50)
```

- 日本語を入力する際は次のことに注意下さい。
 - EDIT で編集する時は、ASIS オペランドを指定する。

```
READY
EDIT SAS.DATA ASIS
```

- PFD または ED で編集する時は、日本語編集機能を用いる。

```
READY
ED SAS.DATA NI          <--- NI 指定で日本語編集が可能
```

2 カタログドプロシジャ SAS607 について

【機能】

SAS を汎用機 M-1800/20 上でバッチ処理により実行する。TSS 形式での処理と異なり、バックグラウンドでの実行となる。長時間のデータ処理、大規模な解析等に適している。

なお、ここではバッチ処理に関する詳細、バッチ処理に関するコマンドの説明は省略します。これらの詳細は、九州大学大型計算機センター発行の「利用の手引・バッチジョブ編」、 「利用の手引・MSP コマンド編」を参照下さい。

【入力形式】

```
SAS607  [, SYSOUT = { A | H | K | O | S | U } ]
          [, OPTIONS = ' SAS オプションリスト ' ]
          [, SASMSG = J ]
          [, SASHELP = J ]
          [, SIDE = BOTH ]
          [, BIND = { LEFT | RIGHT | UPPER | LOWER } ]
          [, PSHEET = { A4LS | A4PR | B4LS | B4PR } ]
          [, LSHEET = { A4LS | A4PR | B4LS | B4PR } ]
```

【記号パラメータの説明】

```
SYSOUT      : 出力クラスを指定する。
              A - NLP
              O - NLP
              H - A4 版高速 NLP ( SAS/GRAPH 出力不可 )
              K - カナ付き NLP
```

U - オープン NLP, CLP

OPTIONS : SAS システムオプションを指定
 SASMSG=J : メッセージを日本語で出力するときに指定
 SASHELP=J : ヘルプメッセージを日本語で出力するときに指定
 SIDE=BOTH : CLP に両面印刷する場合指定
 BIND : CLP 出力時の綴じしろの位置を指定
 PSHEET : SAS プロシジャのプリンター出力時の印刷サイズを指定
 LS : ランドスケープ, PR : ポートレート
 LSHEET : SAS ログのプリンター出力時の印刷サイズを指定

【プロシジャステップ】

SAS607

【関連する DD 名】

SAS607.SYSIN : SAS プログラム (省略不可).
 SAS607.SASLIB : FORMAT データセット.
 省略すると一時データセットが確保される.
 SAS607.WORK : SAS データセット. 省略すると一時データセットが確保される.
 SAS607.FT14F001 : SAS/GRAPH 図形出力用のデータセットを指定

【使用例】

- SAS プログラム SAS.SAMPLE(ARIMEX1) を実行し, 結果を CLP に両面印刷で出力する.
以下のデータセットを編集し, SUBMIT コマンドでジョブを依頼する.

```
//A79999AA JOB CLASS=A
// EXEC SAS607,SYSYOUT=U,SIDE=BOTH
//SAS607.SYSIN DD DSN=A79999A.SAS.SAMPLE(ARIMEX1),DISP=SHR
//
```

- SAS プログラムを, 直接ジョブを依頼するデータセットに書き込む.

```
//A79999AA JOB CLASS=B
// EXEC SAS607
//SAS607.SYSIN DD *
  ( SAS プログラム )
/*
//
```

- SAS プログラム SAS.TEST.DATA を実行し, SAS/GRAPH の出力をデータセット SAS.RESULT.DATA に保存する.

```
//A79999AA JOB CLASS=F
```

```
// EXEC SAS607
//SAS607.SYSIN DD DSN=A79999A.SAS.TEST.DATA,DISP=SHR
//SAS607.FT14F001 DD DSN=A79999A.SAS.RESULT.DATA,
// DISP=(MOD,CATLG),UNIT=PUB,SPACE=(TRK,(1,1)),
// DCB=(BLKSIZE=259,LRECL=255,RECFM=VBA)
//
```

- SAS プログラム SAS.SAMPLE(ALECLUEx) を実行し、メッセージを日本語で出力する。

```
//A79999AA JOB CLASS=A
// EXEC SAS607,SASMSG=J
//SAS607.SYSIN DD DSN=A79999A.SAS.SAMPLE(ALECLUEx),DISP=SHR
//
```

(ライブラリ室 内線 2509)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

4. TSSマルチセッションでのPFD/PFDEの機能追加について

同一のユーザ登録番号で複数のTSSセッションを開設し、それぞれのTSSセッションでPFDを同時に使用する場合、作業用データセット(PFDリストデータセット、PFDログデータセット、PFDEEDITリカバリデータセットおよび区分データセット圧縮時のバックアップデータセット)をPFD毎に生成する機能が追加されました。

従来は、EDIT処理中にシステム障害が発生すると、作業用データセットが単一のため、それぞれのPFDの中でも最後にEDITリカバリ処理をしたデータセットのみ保証されましたがこの機能により、PFD毎のリカバリが可能になりました。

- ・入力形式

コマンド名	オペランド
PFD	[オプション番号] [TERMLANG(E/J)] [<u>ID(識別コード)</u>]
PFDE	[データセット名 [E/NE/B/NB/MLIST]] [SUBCMD(プライマリコマンド列)] [TERMLANG(E/J)] [<u>ID(識別コード)</u>]

- ・オペランドの説明

追加されたIDオペランドについてのみ説明します。

ID(識別コード)

PFDを使用する際の識別コードを指定します。同一ユーザ登録番号の複数のTSSセ

ションで、同時にPFDを使用する場合に必要となります。

この識別コードにはAからZまでの1文字の英字を指定します。

・使用上の注意

- 識別コードを指定したPFDでのメニュー画面上のパラメタ、ファンクションキーの定義、EDITのプロフィールなどの情報もまた、PFD終了時にアトリビュートデータセットに保存されます。そして次にPFDを起動する際には、同じ識別コードを指定することにより、前回のPFDにおける情報を引き継いで使用できます。
- 識別コードを指定したPFDの作業用データセット（リストデータセット、ログデータセット、EDITリカバリデータセットおよび区分データセットの圧縮時のバックアップデータセット）の名前は、次の命名規約に従って生成されます。
 - 1) リストデータセット : ユーザ登録名. 識別コード. PPDn. LIST
n:0~9
 - 2) ログデータセット : ユーザ登録名. 識別コード. PFDLOGn. LIST
n:0~9
 - 3) EDITリカバリデータセット: ユーザ登録名. 識別コード. PFDEDITx. BACKUP
x:AまたはB
 - 4) バックアップデータセット: ユーザ登録名. 識別コード. PFDnnn. COMPRESS
nnn:000~999
- LIBRARYユティリティの区分データセットの圧縮機能におけるSYSPRINTデータセットは、一時データセット名生成ルーチンで生成された名前になりますが、このデータセット名は区分データセットの圧縮が終了したときに、HELP(PF1)キーを押すと表示されます。
- 識別コードを指定したPFDのEDIT処理中にシステム障害が発生したときには、次のPFD起動では同じ識別コードを指定してください。そうしないと、リカバリ機能により編集内容を復元することができません。
- 一方のTSSセッションで使用しているPFDの識別コードが重複した場合、または、両方共に識別コードを省略した場合には識別コードの入力要求メッセージが表示されます。

(ライブラリ室 内線2509)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

5. DRALGTの運用停止について

標記プログラムは、logit モデルによる離散変量の回帰分析を行なうコンプリートプログラムとして1973年（昭和48年）に九州大学大型計算機センターの開発課題として登録されたものです。

過去のライブラリ統計の結果、利用が少数であることから、開発者の許可を頂きましたので、ライブラリの運用を1993年3月末日をもって停止します。DRALGTのソースプログラムは1993年3月末日までLIBCOPY コマンドでコピーが可能です。メンバ名をG2DRALGTと指定し、私用のライブラリとして自身のデータセットにコピーされても結構ですが、管理運用はユーザ自身の責任でされるようお願いします。

運用停止によって支障の生じる方は、早めにライブラリ室までご連絡下さい。

【参考文献】

- 「利用の手引・ライブラリ編」九州大学大型計算機センター、1976（改訂中）

（ライブラリ室 内線 2509）

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

6. SHL1-SHL5の運用停止について

標記プログラム群は、原子核論の殻模型における3次元調和振動子波動関数、エネルギー行列要素、 $j-j$ 結合エネルギー行列要素を計算するプログラムとして1974年（昭和49年）に九州大学大型計算機センターの開発課題として登録されたものです。

過去のライブラリ統計の結果、利用が少数であることから、開発者の許可を頂きましたので、ライブラリの運用を1993年3月末日をもって停止します。SHL1, SHL2, SHL3, SHL4, SHL5の各ソースプログラムは1993年3月末日までLIBCOPY コマンドでコピーが可能です。メンバ名をY3SHL1, ..., Y3SHL5と指定し、私用のライブラリとして自身のデータセットにコピーされても結構ですが、管理運用はユーザ自身の責任でされるようお願いします。

また、運用停止後、ソースプログラムは開発者の元に返却します。詳しくは改訂中の「利用の手引・ライブラリ編」に掲載します。

運用停止によって支障の生じる方は、早めにライブラリ室までご連絡下さい。

【参考文献】

- 「利用の手引・ライブラリ編」九州大学大型計算機センター、1976（改訂中）

（ライブラリ室 内線 2509）

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

7. TRAMSの運用停止について

標記プログラムは連立 m 元常微分方程式

$$\frac{dy_i}{dx} = f_i(x, y_1, y_2, \dots, y_n), \quad i = 1, 2, \dots, m.$$

の解を適当な初期条件のもとで、予測子修正子法の打ち切り誤差検出による自動刻み幅調節で求めるサブルーチンプログラムとして1972年（昭和47年）に九州大学大型計算機センターの開発課題として登録されたものです。

過去のライブラリ統計の結果、利用が少数であることから、開発者の許可を頂きましたので、ライブラリの運用を1993年3月末日をもって停止します。

なおサブルーチンは、以下のプログラムで代用下さい。

		サブルーチン名
NUMPAC	単精度	ODEBSS, RK4S, RKF4AS, RKM4AS
	倍精度	ODEBSD, RK4D, RKF4AD, RKM4AD
	4倍精度	ODEBSQ, RK4Q
SSL II	単精度	RKG, HAMNG, ODRK1, ODAM, ODGE
	倍精度	DRKG, DHAMNG, DODRK1, DODAM, DODGE

TRAMS のソースプログラムは1993年3月末日までLIBCOPY コマンドでコピーが可能で、メンバ名をD2TRAMSと指定し、私用のライブラリとして自身のデータセットにコピーされても結構ですが、管理運用はユーザ自身の責任でされるようお願いいたします。

運用停止によって支障の生じる方は、早めにライブラリ室までご連絡下さい。

【参考文献】

- 「LIBCOPYの公開について」九州大学大型計算機センター広報, Vol.24, No.3, p286, 1991.
- 「SSL II 使用手引書（科学用サブルーチンライブラリ）」(99SP-0050), 富士通株式会社.
- 「ライブラリ・プログラム利用の手引（数値計算編：NUMPAC Vol.2）」名古屋大学大型計算機センター.
- 「利用の手引・ライブラリ編」九州大学大型計算機センター, 1976（改訂中）

（ライブラリ室 内線 2509）

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

8. MMRAの運用停止について

標記プログラムは、複数母集団に関する正規型多次元多重回帰方程式を一つの方程式にまとめて解析を行なうコンプリートプログラムとして1972年（昭和47年）に九州大学大型計算機センターの開発課題として登録されたものです。

過去のライブラリ統計の結果、利用が少数であることから、開発者の許可を頂きましたので、ライブラリの運用を1993年3月末日をもって停止します。MMRAのソースプログラムは1993年3月末日までLIBCOPYコマンドでコピーが可能です。メンバ名をG6MMRAと指定し、私用のライブラリとして自身のデータセットにコピーされても結構ですが、管理運用はユーザ自身の責任でされるようお願いいたします。

運用停止によって支障の生じる方は、早めにライブラリ室までご連絡下さい。

【参考文献】

- 「利用の手引・ライブラリ編」九州大学大型計算機センター、1976（改訂中）

（ライブラリ室 内線 2509）

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

9. 平成5年度プログラム相談員の再募集について

当センターでは、月曜日から金曜日の13時30分～17時30分までプログラム相談を行っています。質問者への助言、技術指導等のため下記によりプログラム相談員を募集しますのでふるってお申し込みください。

なお、詳細は共同利用掛にお尋ねください。

記

- | | |
|---------|--|
| 1. 応募資格 | センター利用有資格者 |
| 2. 担当時間 | 週1回（2時間）
但し、夏期休暇中（7/11～9/10）は、期間内に2回程度 |
| 3. 任期 | 平成5年4月～平成6年3月 |
| 4. 特典 | 指導用計算機時間（年間120分）
富士通マニュアル一定限度まで無償配布 |
| 5. 申込期限 | 3月18日（木）まで |
| 6. 申込み先 | 九州大学大型計算機センター 共同利用掛（内線2532） |

10. 平成5年度講習会開催計画について

下記のとおり平成5年度の講習会を計画していますので、お知らせします。なお、開催日等については都合により変更することがありますので、センターニュースにご注意下さい。

記

開催日	講習会名	内 容	受講対象者	募集人員
4月14日(水) ～15日(木)	TSS初級講習会	MSPにおけるTSSを利用したプログラムの編集・実行などの会話型処理の基本的演習	初心者(パソコン端末・電子メール講習会の受講を考えている人でTSS初心者は受講すること)	40名
4月23日(金)	FORTRAN 使用法講習会	FORTRANプログラムの実行方法について解説と実習(MSP)	センター利用経験者(TSS初級を受講しておくことが望ましい)	40名
5月13日(木)	UXP講習会	UXPの基本的な内容について説明	センター利用経験者	40名
5月21日(金)	パソコン端末講習会	パソコンを大型計算機(MSP, UXP)の端末として利用する方法及び計算機間のファイル転送の説明	初心者(TSS初級, UXPを受講しておくことが望ましい)	40名
5月26日(水)	文献情報検索講習会	文献情報検索システムAIRを用いた文献情報の検索法と実習(MSP)	初心者	40名
6月 3日(木) ～ 4日(金)	VP講習会	ベクトルプロセッサVP-2600上での主にFORTRAN実行方法の説明・実習(VP概要, MSP, UXP)	FORTRAN利用経験者	40名
6月11日(金)	電子メール 利用講習会	MSP(MHS), UXP(JUNET)における電子メール利用法の説明と実習	初心者(TSS初級, UXPを受講しておくことが望ましい)	40名
7月 6日(火)	PKS, GKS 講習会	MSP上でのPKS, GKSの実行方法と実習	PSP, HCBS利用者	40名
7月 8日(木)	LANによるセンター ホストの利用講習 会	センターホストMSP(UXPも少し)のLAN(インターネット)からの利用方法の解説	センター利用経験者	40名
9月29日(水)	統計パッケージ 講習会	統計パッケージの解説と実習	センター利用経験者	40名
10月29日(金)	ケンブリッジ結晶デ ータベース講習会	ケンブリッジ結晶データベースの利用法と実習(MSP)	初心者	30名
11月 9日(火)	テキストデータベ ース講習会	オンライン・データベース「トーマス・マン・ファイル」及び「ゲーテ・ファイル」利用の解説と実演(MSP)	初心者	20名
11月30日(火)	AVS講習会	汎用ビジュアルゼーション・パッケージAVSの基本的使用法の解説	UNIXにある程度の知識を有する人	20名
随 時	特殊機器説明会	プリンタ・MT等周辺機器の基本的な使用法について説明する ・プリンタ(LP, CLP, ポストスクリプト) ・MT ・CMT ・グラフィック端末(FIVISを含む) ・ハードコピー(MENTAT) ・ “ (PHIGS端末)		

11. 科学技術計算と可視化に関する講演会の開催について

近年科学技術計算における可視化（ビジュアライゼーション）の重要性が高まっています。センターでは科学技術計算における可視化の事例紹介や情報交換・意見交換の場の提供を行っていく計画です。今回は下記の要領で講演会を行います。ふるってご参加ください。

日時 : 1993年3月18日(木) 13:30~17:00

場所 : 九州大学大型計算機センター多目的講習室(3階)

プログラム:

13:30~13:40 挨拶

13:40~14:30 講演 I)

講師 柏木 浩氏(九州工業大学情報工学部教授)

題目 「生物学・化学のためのネットワークシステムとビジュアライゼーション」

概要 生物学や化学のためのコンピュータグラフィックスの発達はめざましい。

特に、あまりにもマイクロであるため、あるいは仮想的なものであるため実験装置では観察できないものはコンピュータグラフィックスの一人舞台である。九州工業大学の一学科に構築したネットワークシステムとそれを用いたタンパク質などのビジュアライゼーションの実例を紹介する。また、スーパーコンピュータによる量子化学計算からえられた電子分布、分子場などの映像も紹介する予定である。

13:40~15:20 講演 II)

講師 宮地 英生氏((株)クボタソフトウェア研究第2開発部)

題目 「パーソナル・ビジュアライゼーション環境A V S」

概要 計算機の世界はダウンサイジングが進み、ワークステーションがパーソナルに利用され、グラフィックスは非常に身近になってきた。分散環境では、研究毎にシステムのカスタマイズが可能なのが特徴であるが、実際には3次元グラフィックスのインターフェースが統一されていないため、個人が可視化プログラムを構築することは困難であった。1989年A V S社が開発した可視化システムA V S(Application Visualization System)は、研究者がパーソナルな可視化システムを構築するための画期的なツールである。A V Sは可視化の処理を複数の処理に分割することで、ユニークな部分だけのカスタマイズで、独自の可視化システムを構築できるようにしている。A V Sの設計思想を紹介しながら、科学技術計算の可視化のポイントについて説明する。

15:20~15:30 休憩

15:30~17:00 パネル討論

「科学技術計算におけるビジュアライゼーションの現状と将来」

パネリスト

宮地 英生氏((株)クボタソフトウェア)

古川 雅人氏(九州大学工学部)

久原 哲氏(九州大学大学院農学研究科)

問合せ先 〒812 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大型計算機センター
研究開発部 島崎真昭(Tel 092-641-1101内線2501)
simasaki@cc.kyushu-u.ac.jp

12. 「利用の手引・MSPコマンド編」の発行について

上記手引は、九州大学大型計算機センターで運用中の OS の一つである MSP について、ユーザが使用可能な TSS コマンド全てを解説したリファレンスマニュアルです。

MSP を利用になっている方は、端末のそばに常置しておく大変便利です。

[主な内容]

- ハングアップしたセッション，誤って投入したジョブをキャンセルする
- 他の課題に自分のデータセットの参照を許可する
- FORTRAN データセットの固定長と可変長を交換する
- 2つのデータセットを結合する
- 端末に表示されるセッションのトレースをデータセットに保存する
- データセットの内容，ジョブの結果をセンターのプリンターに出力する
- センターで利用できるデータベースの概要を知る．また参考文献を調べる
- UXP，他のワークステーション間で ftp によりファイル転送を行う
- MSP データセットを MS-DOS に転送する
- UXP，他センターに課題を申請する
- バッチジョブを用いて大規模ジョブを実行するためのコマンド全般

ご希望の方は、各連絡所を經由して共同利用掛までお申込下さい。

(共同利用掛 内線 2 5 1 5)